

株式会社 A 社様 日本語研修レベルチェック報告

表題の件につき、下記の通り終了御報告を致します。

-記-

1. レベルチェック概要
2. 現状と課題 (“できる” こと、“できない” ことの把握)
3. ニーズの整理とニーズ満足のための方針 (目標、期間)
4. 講師総評

1. レベルチェック概要

レベルチェック日	20YY年MM月DD日		
受講者	<ul style="list-style-type: none"> ・ B 様 ・ C 様 (国籍：両名とも D 国)		
チェック項目	1	定着度	学習範囲、理解度の確認 (質問数：124)
	2	会話	日本語会話で、“できる” こと “できない” ことの確認
			超級：問いかけに対し、理由、仮説を用いて説明ができる ・ 話題：講義、社会問題批判、幼児・目上の人を説得、等 ・ 代表的な質問の形：～ですか。
			上級：問いかけに対し、説明ができる ・ 話題：遅刻の理由、事故の報告、値切り、別れ話、等 ・ 代表的な質問の形：どんな/どうして～ですか。等
			中級：問いかけに対し、文単位で答えられる ・ 話題：買い物、道案内、趣味について述べる、等 ・ 代表的な質問の形：～について説明してもらえませんか等
初級：問かけに対し、単語で答えられる ・ 話題：挨拶、名前・月日時間、値段、年齢、等 ・ 質問の形：			
使用教材	E 他		
今後の計画	初回授業	M1 月 D1 日	レベルチェック (before)
	第 4 回授業	M2 月 D2 日	初期チェック (授業レベル・ニーズ確認)
	第 15 回授業	YY 年・M3 月	第 1 回熟達度チェック

2. 個人別評価 : B様

1) レベルチェック評価

テスト内容	定着度	日本語会話でできること
評価	80 (全問題中 42 問未習)	初級 (上-中-下)

コメント

定着度は、既習問題 82 問中 80 問の正答ということで、まじめな学習への取り組みが見られます。日本語会話力は文での描写ができるので、初級でも上位のレベルに位置すると思われませんが、自発的に文を構築するというよりも“丸覚え”した文で対応している感があります。自発的に文を構築できる中級レベルの日本語力習得が目標だと思われます。
--

2) 評価項目

	項目	Before	After
1.	名前、出身地が言える。挨拶ができる。	5	
2.	時間を言うことができる	5	
3.	買い物するとき、自分の求めるものが買える	1.5	
4.	趣味について述べるができる	2	
5.	道案内ができる	0	
6.	遅刻の理由が説明できる	0	
	総合評価	13.5	

※評価基準

- 5: 問題なくできる (100%)
- 4: ややつまる点はあるが、ほぼできる (75%)
- 3: できるときもあれば、できないときもある (50%)
- 2: できるとは言いがたいが、時折できることもある (25%)
- 1: できない (5%)

コメント

質問に対し、文レベルで答えようという意欲が見られます。
ただし、答えるまでに間があります。発話前に、頭の中で文を構築していると思われます。
中級レベルの会話力を身に着けるためには、場面とその場面にいることを想定し、発話を促すといったトレーニングが効果的だと考えます。3.4 が問題なくできるようになること
5.6 でポイントがつくようになることが目標です。

2. 個人別評価 : C様

1) レベルチェック評価

テスト内容	定着度	日本語会話でできること
評価	54 (全問題中 42 問未習)	初級 (上-中-下)

コメント

既習問題 82 問中 54 問の正答。勉強したことを再度振り返ることで、レベルアップの速度が上げられると思います。「Fはどんな町ですか」「小さい町」、「GとHとどちらが大きいですか」「F」のように、現状は語レベルでの返答ですが、学習を通してより詳しい描写ができるようになることが目標です。
--

2) 評価項目

	項目	Before	After
1.	名前、出身地が言える。挨拶ができる。	4.5	
2.	時間を言うことができる	4.5	
3.	買い物のとき、自分の求めるものが買える	1	
4.	趣味について述べるができる	1	
5.	道案内ができる	0	
6.	遅刻の理由が説明できる	0	
	総合評価	6.5	

※評価基準

- 5: 問題なくできる (100%)
- 4: ややつまる点はあるが、ほぼできる (75%)
- 3: できるときもあれば、できないときもある (50%)
- 2: できるとは言いがたいが、時折できることもある (25%)
- 1: できない (5%)

コメント

Yes/No 形式の問いかけ、2 者択一的な問いかけには概ね対応できていました。ただし、“なぜ、どんな、どうやって” 等、疑問詞を伴った質問になると、回答不能になるようです。疑問詞を伴った質問を多く聞き、多く答えることで、発話の質が高まります。
1.2 の項目について自信をもってコミュニケーションができるようになること、3.4 をいきいきとこなせるようになることが、直近の目標です。

(総評)

Bさん、Cさんとも、すでに学習したことについては、しっかりとフォローしており、知識の定着の高さが見られます。これまで文法中心の学習スタイルで、コミュニケーションまでは手が回らなかったのではないかと推測いたします。当研修を通して、既習の知識を活かしながら、コミュニケーション力の向上につなげていきたいと思います。当研修で受ける指導は、お二人にしたならこれまでに経験したことのないもので、最初は戸惑うかもしれません。お二人の反応に留意しながら、指導を進めていきたいと思います。まずは、授業で自信をつけていただき、その自信をもって、日常会話に積極的にチャレンジしてもらるように心がけていきたいと思います。また、日本語能力試験への挑戦も視野に入れた情報提供をしていけたらと考えております。

(参考) 中級の会話例と Bさん・Cさんの現状

中級会話例

- Q: ○○さんの趣味はどんなことですか。
- A: えーと、私の趣味は、えーと、スポーツをすることです。
- Q: あー、そうですか。スポーツは、どんなスポーツが好きなんですか。
- A: んー、バレーボールとか、テニスとか好きです。
- Q: あー、そうですか。じゃあ、日本でもバレーボールやテニスをしていますか。
- A: いいえ、全然、したことがないです。
- Q: あー、そうですか。じゃあ、中国にいらしたときに、バレーボールやテニスをしたんですか。
- A: はい、大学時代に、バレーボールチームに入って、えーと、やったことがあります。
- Q: あー、そうですか。あのバレーボールもね、あのゲーム(?) あたし昔やったことあるんですけど、最近ちょっと全然やっていないので、どんなゲームか教えてくださいませんか。
- A: えーと、ちょっと難しい、えーと、両チームは分けて、一つチームは 6人で、えーと、しています。そのゲームをしています。えと、ボールはえと、地面について、そのチームは負けちゃった。その点が・・・と、負けちゃった。

現状：Cさん 1：44～2：25

- Q Gはどんな町ですか。
A わからない。
Q Gは大きい町ですか、小さい町ですか。
A 小さい。
Q 小さい、あっ、そう。Fと・・・
A F？
Q FとGとどちらが大きいですか。
A G
Q Gのほうが大きい、あっ、そう。

現状：Bさん 2：00～3：55

- Q Hでどのくらい日本語を勉強しましたか。
A Hで4か月勉強しました。
Q あ、4か月。ふーん、日本語の勉強はどうでしたか。
A 難しいです。
Q ははは、難しい。はー、えーっと、友達と一緒に勉強しましたよね。
A はい。
Q うん、友達は何人ぐらいいましたか。Hで。
A あー、友達は、ぬ、6人、います。
Q ああ、6人。ふーん、そっか。えっ、その友達は今、どこにいますか。
A うー、いまー・・・、Iにいます。
Q I、あ、そう。えー、友達にメールをしたり、電話をしたりしますか。
A はい、時々、電話を、う、かけます。
Q 電話をね、ふーん。友達は、Iはどうだと言っていますか。
A あー、・・・、すみません、もう一度お願いします。
Q うんうん、えー、友達が今、Iにいますね。
A はい。
Q 友達は、Iはいい町、いい町です、Iはよくない町です。友達は何と言いますか。
A ・・・わからない。
Q あー、そう、うんうん。